

抑制アールスメロン（赤肉）の有望品種検討

1. 目的（取り上げた理由）

【現状】30戸、4.6ha、単収3,300kg/10a

市場から赤肉メロンと緑肉メロンの2個入り王冠箱の要望がある。

アールス系赤肉メロンは市場向けの栽培がされていないため抑制作型における有望品種を検討する。

2. 方法

1) 供試品種

供試品種名（育成種苗会社名）	播種日	定植日
モネレッド907早春晩秋系（みかど協和）	7月15日	7月27日
モネレッド1035夏系（みかど協和）		
ロイヤルレッド（神田育種）		
妃春秋系（横浜植木）		
パリス春Ⅱ（八江農芸）		

2) 試験区の規模：1区22株 2区制

3) 育苗方法：7.5cmポット（自根）に播種した後、定植

4) 使用施設：パイプハウス（5m×30m）

赤外線マルチ スミサンスイマルチ03×2 トンネル（0.5ポリ）

5) 栽植密度：1730株/10a（畝幅180cm、株間40cm×条間50cm 2条植）

6) 仕立て方法：立ち栽培一株一果着果

7) 土壌消毒 臭化メチル+ネマトリンエース

8) 施肥量（10a当たり）

完熟堆肥2,000kg セルカ160kg 有機重焼燐 20kg

油粕60kg 固形30号 80kg レオユーキオール8 30kg

成分量（kg/10a） N：14.9 P：18.4 K：10.8

3. 結果の概要

1) いずれの品種とも8月下旬頃に開花し、8月23日～25日頃の着果が多かった。高温の影響により、いずれの品種とも目標とした着果節位に着果しない場合があり、着果節位が高めとなった（表1）。

2) 果実収穫期の一果重は‘モネレッド907’、‘妃春秋系’、‘ロイヤルレッド’、‘モネレッド1035’、‘パリス春Ⅱ’の順となった（表2）。

3) 果形はいずれの品種とも同程度の果形指数（高さ/横径）となった（表2）。

4) ネットの発生はいずれの品種とも大きな差は無かったものの、‘ロイヤルレッド’はやや揃いが悪くかった（表2）。

5) 糖度は‘ロイヤルレッド’、‘妃春秋系’、‘モネレッド1035’、‘パリス春Ⅱ’、‘モネレッド907’の順となった（表2）。

以上の結果、7月中旬は種の抑制栽培赤肉アールスメロンでは‘妃春秋系’、‘ロイヤルレッド’が果実品質に優れ有望と考えられた。

【具体的データ】

表1 生育調査 調査日: 2010年10月11日

品種名	開花期	着果日	つる長 (cm)	葉数 (枚)	茎径 (mm)	葉長 (cm)	葉幅 (cm)	葉柄長 (cm)	節間長 (cm)	着果 節位
モネレッド907	8/19-8/24	8月23日	109.5	24.6	11.1	18.0	20.2	17.4	4.5	11.7
モネレッド1035	8/19-8/26	8月23日	125.5	23.8	13.8	18.7	21.4	19.3	5.3	11.7
ロイヤルレッド	8/19-8/26	8月24日	121.8	22.2	11.7	18.2	19.1	18.7	5.5	13.0
妃春秋系	8/19-8/24	8月23日	129.0	25.3	13.0	19.2	23.9	19.3	5.1	11.6
パリス春Ⅱ	8/19-8/26	8月25日	136.5	25.1	12.6	19.5	22.1	19.4	5.4	12.7

表2 収穫調査 調査日: 2010年10月13日

品種名	果重 (g)	高さ (mm)	横径 (mm)	果形 指数 ^Z	ネット評価 ^Y		糖度 (Brix%)
					揃い	盛上り	
モネレッド907	1,438	165	160	1.0	3.0	3.1	12.5
モネレッド1035	1,290	156	159	1.0	3.0	3.1	15.0
ロイヤルレッド	1,302	157	161	1.0	2.8	3.2	15.7
妃春秋系	1,382	161	154	1.0	3.0	3.2	15.3
パリス春Ⅱ	1,202	151	150	1.0	3.0	3.1	14.7

Z: 果実の高さ/横径

Y: 不良:1、やや不良:2、標準:3、やや優れる:4、優れる:5 としたときの平均点数